

二〇二五年七月一八日

揉むほどに紫蘇の香の充つ厨かな

澄子

二〇二五年七月一七日

耳遠き父と並びて夕端居

康子

雨の古都祇園囃子に傘の花

みきえ

二〇二五年七月一六日

波音を枕としたる午睡かな

山椒

かなかなの輪唱なせる高野道

やよい

二〇二五年七月一五日

若楓幾重にも枝うち重ね

明日香

二〇二五年七月一四日

竹林へ光芒なせる大西日

康子

二〇二五年七月一三日

小祠の供花一茎の蓮の花

ぼんこ

二〇二五年七月一二日

麦茶もて聖書読む会始まりぬ

あひる

毎日句会みのる選・二〇二五年七月二〇日